

全国セミナー2009

「ワーク・ライフ・バランスの実践 ～教育・労働・福祉を含めた生活保障の分野で」

日 時：2009年10月17日（土）・18日（日）
場 所：独立行政法人 国立女性教育会館

東武東上線武蔵嵐山駅下車
<http://www.nwec.jp/>

17日（土）

- 午前の部（9:30～12:30）
 - ・基調講演：上川陽子元男女共同参画・少子化担当大臣（9:40～10:50）
 - ・委員会・支部による調査研究報告の発表
- 午後の部（13:30～17:00）
 - ・パネルディスカッション（13:30～15:00）
 - 牧野カツコ氏（お茶の水女子大学名誉教授）
 - 佐藤博樹氏（東京大学教授）
 - 片岡千鶴子氏（連合男女平等局局長）
 - 房野桂大学女性協会会長
 - ・委員会・支部による調査研究報告の発表
 - 懇親会（18:00～20:00）

18日（日）

- 午前の部（9:30～11:30）
 - ・分科会
- 午後の部（12:30～15:00）
 - ・分科会報告
 - ・全体討議（含2010年国際大学女性連盟メキシコ大会について）

り、国際婦人年連絡会他、3団体との協働によるNGO活動、時宜に応じた意見表明など、社会への働きかけを促進するうえで意義を認めた。④本年は、前監事五十嵐康子氏が社会教育功労者として文部科学大臣より表彰され、3年連続して本協会員が選ばれたことは、五十嵐氏の多方面にわたる活躍はもちろんのこと、JAUWの活動に対する社会的評価を高めた。

⑤委員会並びに支部は常に地道な活動に取り組み、各分野別にまた各支部も独自の成果を挙げられて

いるが、今後、ますます公益目的事業が広く行われることを期待する。

以上のことを認め、ここに報告する。

会計監査報告

監事 加藤 恭子

2009年4月23日、田中トモ子監事とともに

本部事務所において、社団法人大学女性協会の

2008年4月1日から2009年3月31日までの

の2008年度における収支計算書及び財務諸表

につき監査を実施した。

監査の結果、収支計算書及び財務諸表は適正に作成されており、元帳、領收書・預金通帳等照合した結果、本社団法人の収支及び財産の状況は正しく示されているものと認め、ここに報告する。

第1号議案 2008年度事業報告について議長は承認を求めた。承認

第2号議案 2008年度収支決算並びに資産状況及び監査報告について議長は承認を求めた。承認

第3号議案 2009年度事業計画案「第52回通常総会参考書類－2009年度事業計画」参照

（1）総務 「2009年度事業計画」

事業計画概要（30頁）参照

1. 2009年度のシンポジウムをうけて「全国セミナー2009」を実施し、報告書を作成する。

2. 授与事業（国内奨学生ミニナード）を実施する。

3. 「新春のつどい」・国内奨学金および表彰事業（守

田科学研究奨励賞）を実施する。

（2）支部 「2009年度事業計画」（30頁～32頁）に基づき説明。

（3）明 明 「2009年度事業計画」（33頁～38頁）に基づき説明。

（4）支 部 各委員長 各委員長

（5）委員会 「2009年度事業計画」（30頁～32頁）に基づき説明。

（6）会員 増強策を講じる。

（7）公益社団法人認定申請の準備を進める。

（8）会員 增強策を講じる。

（9）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（10）W A 総会に参加する。

（11）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（12）W A 総会に参加する。

（13）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（14）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（15）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（16）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（17）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（18）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（19）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（20）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（21）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（22）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（23）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（24）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（25）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（26）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（27）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（28）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（29）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（30）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（31）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（32）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（33）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（34）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（35）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（36）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（37）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（38）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（39）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（40）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（41）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（42）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（43）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（44）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（45）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（46）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（47）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（48）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（49）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（50）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（51）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（52）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（53）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（54）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（55）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（56）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（57）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（58）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（59）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（60）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（61）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（62）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（63）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（64）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（65）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（66）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（67）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（68）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（69）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（70）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（71）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（72）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（73）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（74）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（75）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（76）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（77）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（78）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（79）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（80）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（81）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（82）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（83）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（84）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（85）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（86）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（87）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（88）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（89）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（90）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（91）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（92）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（93）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（94）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（95）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（96）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（97）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（98）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（99）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（100）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（101）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（102）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（103）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（104）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（105）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（106）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（107）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（108）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（109）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（110）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（111）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（112）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（113）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（114）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（115）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（116）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

（117）IFUWの決議、方針に従った活動を行う。

- ・名古屋市男女平等参画係
- ・イコール名古屋関係
- 推進会議全体会議に参加
- 事業計画（2009年度）
- ・総会、例会・スペイン語講座継続・名古屋環境大学共育講座開催、ワーランドコラボフェスタ、COP10学習会參加、支部ニユース発行

（社）石川県肢体不自由児協会創立50周年記念式

・観能会・親睦旅行
年懇親会・例会・ワーレンドコラボフェスタ(名古屋市国際センター)、名古屋市、愛知県主催・名古屋環境大学共育講座(生物多様性と私たちのくらし)木に触れて木を活かすライフスタイルへのお誘いに参加
*イコール名古屋関係
・名古屋市男女平等参画推進会議全体会議に参加
事業計画(2009年度)
・総会、例会・スペイン語講座継続・名古屋環境大学共育講座開催、ワルドコラボフェスタ、COP10学習会に参加、支部ニュース発行

- ・ 会員数65名 2000円
事業報告(2008年度)
- ・ 支部総会開催(4/27)
講演「男女共同参画が達成したもの、未達成のもの」個人的体験を踏まえて 講師 田村哲樹氏
- ・ 例会開催 5回
- ・ 「ラテンアメリカの忘れられた女性たち—その性の奇跡—」「遺言・相続をめぐる法と実務」「岐阜支部奨学生の研究に学ぶ—森林の炭素循環—」「折り紙工芸など」「JA UW 国内奨学生受賞の研究発表」
- ・ その他

（登録団体としての活動）
NPO法人 静岡県男女共同参画センター・交流会
議会員「男女共同参画の日」県民フェスティバル
ル・平成20年度地域の男女共同参画を進める事業参加」しづおか男女共生社会実現
同参画推進会議会員・静岡県国際交流協会会員、ユニファーム国内委員会会員
属（賛助会員）・静岡市女性性会館協力団体、「わいわい祭り」静岡支部活動写真展示」参加
事業計画（2009年度）
・支部総会（5/16）例会開催・親睦会・新年会・「支部だより」発行

- ・事業報告（2008年度）
- ・支部総会開催（5/17）
- ・研修会「森林の炭素循環について」講師：津津野庸子氏（2007年度国内奨学生）
- ・奨学生推薦を岐阜大学に依頼（推薦なし）
- ・「岐阜支部60年誌」相談会（7/9）
- ・岐阜支部60年誌出版（200部（3/10）
- ・親睦昼食会 岐阜グラン ドホテル（3/12）
- ・その他、支部だより発送
- 5. 本部よりのメール転送、または印刷郵送
- 事業計画（2009年度）
- ・支部総会・研修会2回
・親睦昼食会

典に招待され表彰を受け
寺島笑子会員出席（5／28）・金沢国際交流関係
団体連絡会に出席（6月・2月）・国際交流ま
つり2008運営委員会
に5回出席（7月～9月）・国際交流まつり
2008に参加し、金
沢支部の紹介をする
（10／4～5）・男女共同
参画に関する市民団体・
グループの情報交換会に
出席（9月・2月）・金城
大学主催 福祉創造フ
ォーラムに参加（11／22）・（財）金沢国際交流
財団設立20周年記念
事業計画（12／14）に参加
支部総会開催（5／31）・

・ 例会開催 7回
 講演「腎臓学を通して追究する、女性医師としてのキャリア形成」(5/24) 講師 武曾恵理氏、講演「高齢者をとりまく社会保障の現状」中川慶子会員(6/28)、お話を上田宗広君「僕とアメフト」京大工学部4回生(9/13)、意見交換「ワク・ライフ・バランス・コーディネーター」村澤民子会員、若い研究者の

- ・会員数36名 1000円
- ・事業報告（2008年度）
- ・支部総会開催（4月26日）
- ・国内奨学生の推薦1名受賞
- ・役員会・懇親会（9月16日）
- ・本部シンポジウムにて発表
- ・企業見学会（シャープ、太陽光発電）（12月3日）
- ・奨学金受賞記念講演会・祝賀会（新年会）（1月31日）
- ・シンポジウム報告会・役員会
- ・他団体との活動・協力
- ・奈良県男女共同参画県

（2／28）例会「インドネシアの食文化」講師：阿良田麻里子氏（3／29）役員会（2回）開催その他、支部だより発行
他団体との活動・交流
・国際女性年大阪連絡会
主催の講演会（2／28）
に参加。他支部との交流
(神戸支部玉岡かおる講
演会5／17に参加)
事業計画（2009年度
・支部総会開催・支部役
員・国内奨学生候補者の
推薦・国際女性年大阪連
絡会に参加

(3)/22 他
アにハネル展示参加
業計画(2009年度)
・支部総会・奨学生支援・役員会開催・支部だより発行・同好会活動・財務資金活動・他団体との交流活動

早川あけみ 円 員数2名 支部

賛助員数24名 30000円
業報告(2008年度)
文部総会開催(5/24)
早話「柳川の水利」講師
加藤仁美会員

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

四二三

卷二

無限次元タイヒミュラー空間と モジュラーグループの力学系

千葉大学大学院理学研究科准教授
藤川英華



複素構造を備えた2次元の曲面をリーマン面といい、その複素構造の変形空間をタイヒミュラー空間という。リーマン面が有限型の場合にはタイヒミュラー空間は有限次元複素多様体となるが、リーマン面が無限型の場合には無限次元となる。タイヒミュラー空間上にはモジュラ一群が双正則自己同相写像群として作用している。私の研究内容は、無限次元タイヒミュラー空間上のモジュラ一群の作用の解明である。一般に、その作用は非常に複雑で、先行研究はほとんどない。私は、モジュラ一群の極限集合と不連続領域の概念を自ら導入し、モジュラ一群の力学系理論を構築した。

そのアイデアの導入には、2つの背景がある。1つ目は、有限次元タイヒミュラー空間論の研究で得られた結果を無限次元に拡張しようとする複素解析学における自然な研究の流れである。実際、有限次元タイヒミュラー空間論は、複素解析学のみならず、微分幾何、代数幾何、トポロジー、数理物理等で様々な立場から研究が盛んに行われてきた。特に、モジュラー群の作用は不連続であり、リーマン面の双正則同値類の集合であるモジュライ空間は、タイヒミュラー空間の商空間として得られる。無限型リーマン面に対しても、モジュライ空間にある種の構造を導入しようとするとき、モジュラー群の作用が不連続でないという事実は、根源的な問題であり、それを根本的に扱う必要がある。2つ目は、有理函数の反復合成で得られる複素力学系理論とリーマン球面上に作用するクライン群論である。これらの理論を取り入れることにより、モジュラー群の非離散性と結びつく様々なカオス性と、極限集合の幾何学的対応物としてのフランタル性の明が可能になる。

モジュラー群の力学系理論の応用のひとつとしては、複素多様体論における中心的问题であるタイヒミュラー空間の双正則自己同型群の决定の解决に貢献したことが挙げられる。また、リーマン面の境界成分の複素構造の变形空間である漸近的タイヒミュラー空間上にモジュラー群の作用を拡張し、その力学系の考察をタイヒミュラー空間上の考察に還元することができる。さらに、タイヒミュラー空間の正則自己被覆の反復合成による力学系に拡張し、複素力学系の理论の基礎ともなる考察に、新たな視点を与えた。また、モジュラー群それ自身やその様々な重要な部分群の作用に対する離散性条件を与えることにより、複素構造を持つ新しいモジュライ空间が構成できた。

表面を媒体とした高機能触媒の創出と 触媒反応機構のリアルタイム解析

自然科学研究機構分子科学研究所准教授
唯 美 津 木

唯 美 津 木

現代社会で汎用される多種多様な有用化合物の殆どは、固体触媒を用いて人工的に大量合成されており、高機能固体触媒表面の合理的設計は、持続可能な社会を形成するために必要な次世代の化学技術を支える最重要課題のひとつである。しかしながら、固体触媒表面においては、分子レベルで触媒活性構造とその反応場を自在に設計・構築する一般的手法は、依然として確立されておらず、目的化合物の合成を意図した高機能触媒表面設計法の確立が強く望まれている。

私は、金属錯体の表面固定化法と表面での構造変換法を駆使して、固体触媒表面の分子レベル設計法を複数提案し、高い触媒機能を有する新型触媒の設計を行ってきた。特に、最高難度触媒反応のひとつであり、夢の触媒反応と言われているベンゼンと酸素からのフェノール直接合成に世界最高の触媒性能を示す新型レニウムクラスター触媒を開発し、実用化レベルを遙かに凌駕する高いフェノール収率を世界で初めて実現した。また、分子形状を記憶した反応空間を作成できる、固定化金属錯体の配位子を鋳型分子としたモレキュラーインプリントィング触媒の設計法を世界に先駆けて考案した。これらの表面を媒体とした新規高機能触媒の表面設計手法は、不齊合成、高選択酸化などの社会的な需要が高い有用触媒反応における新しい触媒表面設計法として、展開が強く期待されている。

更に、放射光硬X線を利用した触媒活性構造のダイナミック構造変化のその場解析法の開発にも取り組み、高性能触媒の触媒反応過程におけるダイナミックな動きや働きを実時間で明らかにすることに成功している。例えば、開発した新型レニウムクラスター触媒のベンゼンと酸素からのフェノール直接合成過程におけるダイナミック触媒構造変化をリアルタイム計測し、開発した触媒の高フェノール選択性の一因を分子レベルで解明した。また、燃料電池作動条件下における実用燃料電池電極触媒の劣化過程を捉え、次世代の燃料電池触媒開発に向けた重要な構造情報を引き出すことにも成功した。これまで困難であった実触媒リアル系のその場・実時間構造解析の実現により、実用触媒の具体的な開発指針を引き出す研究の展開を目指している。

《國際獎學生報告會》

ファデイル・ゼイレクさん（トルコ）
ニラ・シャルマさん（ネパール）

「珪酸カルシウム水和物（C-S-H）による排水中から
のリンの回収」というテーマで発表した。初めにリン
の物質循環を図示し、不
パールで農業用肥料をはじめ
広範囲に利用されている
リンの鉱石の埋蔵量には限
界があつて、将来的に資源
ニラ・シャルマさんは
「珪酸カルシウム水和物
（C-S-H）による排水中から
のリンの回収」というテー
マで発表した。初めにリン
の物質循環を図示し、不
パールで農業用肥料をはじめ
広範囲に利用されている
リンの鉱石の埋蔵量には限
界があつて、将来的に資源
の世話を夫に託して
前に誕生した長男を抱いだ
がらの研究と、子育てとい
く生活を両立させていく方
への研究が、それぞれの
国に大きい貢献をするこ
とを期待したい。

（国際奨学委員長
平野 和

2008年度国際奨学生
ファデイル・ゼイレクさん
とニラ・シャルマさんの合
同研究報告会が東京支部と
の共催で、3月9日（土）
津田塾大学同窓会会議室で
開かれた。

ファデイルさんのテーマ
は「トルコのサンリウルフ
ア地方における三日熱マラ
リアについて」で、アフリ
カの子どもたちを中心に蔓
延し、いまなお大きな社会
問題になつてているマラリア
についてまず語った。毎年
5億人以上の患者が発生
し、100万から300万人
の死者が出ているとの話
に、改めてこの病気の恐ろ
しさを痛感した。次いでト
ルコの一地方に患者が多い
三日熱マラリア予防のワク
チン開発のために行った原
虫のメロゾイド表面蛋白の
遺伝子構造の特定、ワクチ
ン候補抗原に対する住民の
自然の抗体獲得度の調査と
枯渇の恐れがある反面、
水中のリンは富栄養化に
する水質汚染の原因として
題となつていて説明。
女の研究は、こうした水
の問題を同時に解決す
るためのもので、排水処理
の汚泥に含まれるリン
CSHによって回収し、
エリントン鉱石としての再
利用を目指すものである。
汚泥から溶出したリ
ンにCHSを加え、リン濃
度をPH、CSH粒子サイズ
の違いで、リンの回収
がどのように変わるか、
適反応条件を検討して
いる、と説明した。なお被
害の部分については、難題
員に飛び入りで通訳をし
ただきありがたかっつ
い。2人の報告をはさん
で、東京支部からのプレゼン
を森川支部長が手渡し、
いで大阪支部から託さ
れていた。ゼイレクさんは2人
で、平野が手渡す
プレゼントを平野が手渡す

獎學委員長
平野 和

昨年4月の総会後当委員会は「公益認定申請」を経てきました。「公益社団法人」の定款作成ガイドラインに当てはめた当協会の文書試案を作成し、「機関設立図」とともに2月の理事会に提出したことはご報告込みであります。この間委員会、理事会、奨励会で常に問題になっていたのは公益認定の第1の条件である「公益目的事業」の事業比率全ながら2009年度予算案は新しい形式によって完成されました。この間委員会、理事会、奨励会で常に問題になっていたのは公益認定の第1の条件である「公益目的事業」の事業比率50%問題(総事業費の50%)以上の比率で「公益目的事業」を行わなくてはならないです。

ここで言う「事業」とは定款と公益認定法の別表(第2条関係)に定められた「事業の種類」、ガイドラインによる「チェックボックスの事業区分」によって決められるもので、私たちが常識的に公益性のある事業と考えてきたものと必ずしも一致しません。2月以降総会まで委員会ではこれまで大学婦人／女性協会が行つてきただ本部支部を含め、事業を整理して「公益目的事業」の比率がどのくらいになるか試算をしていました。認定法別表等に従うとIFUWを通じて国際的な活動を行つても、予算の上でかなりの額にならざるを得ないことがわかつてきました。このことが事業費とすることはむずかしく、講演会その他事業にも共益事業になるものが多いため、幾通りかの試算の結果、当協会の「公益目的事業」は50%に満たないことが明りました。このことをご報告しましたので理事会評議員会、総会において事業費率の問題が活発に議論されました。

その議論のなかでは、「一般社団法人」と「公益社団法人」のちがい、それぞれのメリット、デメリットがあらためて問題にされたことは、総会に参加された方

新 入 会 員 (29名)

2009年1月～6月（理事会承認）

札幌	支部	子信	子理	子恵	子重	子かほる	子真美	子善	子英里
牛来	支部	田敦	江富	代佳	部多	若重	美神	恭田	多みどり
秋田	支部	田部	澤佳	代亞	部朝	若重	藤田	原田	正かおる
仙台	支部	澤川	川部	田亞	室矢	岡静	阪伊	瀬井	寿まり和
新潟	支部	田部	田部	田亞	室奈	岡澤	阪伊	島川	実恵佳
東京	支部	川田	田口	水蒼	丸奈	阪伊	阪伊	山原	正子
石金	支部	田口	口水	蒼主	矢奈	大岡	西萩	西萩	和子
澤清	支部	田口	口水	主ゆ	室矢	岡大	西萩	西萩	実子
日	支部	田口	口水	主ゆ	室矢	岡大	西萩	西萩	佳子

生報會員委特別

《詩經》卷之三

ときほんどの公益法人
その後も公益法人になる
ことを考へる、大半は

2008年度 社団法人 大学女性協会収支決算報告書及び貸借対照表

収 支 計 算 書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 収入の部				
1 受取利息収入	220,000	458,684	△238,684	
事業基金利息	80,000	150,653	△70,653	
ホームズ奨学生利息	1,000	3,912	△2,912	
国際奨学生利息	80,000	205,243	△125,243	
安井医学奨学生利息	10,000	17,547	△7,547	
守田科学研究奨励金利息	30,000	40,109	△10,109	
若手会員育成金利息	4,000	8,041	△4,041	
国内奨学生利息	0	0	0	
セミナー活動資金利息	0	16,261	△16,261	
退職給付積立金利息	0	149	△149	
運用財産利息	15,000	16,769	△1,769	
2 受取入会会員収入	60,000	51,000	9,000	
人会会金	60,000	51,000	9,000	¥1,000*51口
3 受取会費収入	8,250,000	7,386,000	864,000	
正会員会費	8,160,000	7,320,000	840,000	¥6,000*1,220口
賛助会員会費	90,000	66,000	24,000	¥6,000*11口
4 事業収入	2,300,000	2,334,294	△34,294	
セミナー参加費	0	0	0	
セミナー補助事業	0	0	0	
シンボジウム参加費	150,000	0	150,000	
国際奨学生報告会参加費	50,000	34,320	15,680	
守田科学研究報告会参加費	90,000	67,500	22,500	
会員事業活動収入	1,200,000	1,202,474	△2,474	財務委員会より
新春のつどい参加費	800,000	1,030,000	△230,000	¥10,000*103名
その他参加費	10,000	0	10,000	
5 寄付金収入	150,000	10,164,000	△10,014,000	
会員その他寄付	150,000	10,164,000	△10,014,000	故宇田氏ご遺族 林様より1千万円、他
6 雜収入	1,510,000	1,044,516	465,484	
総会参加費	690,000	360,000	330,000	¥3,000*12名
分担金	550,000	550,000	0	東京支部分担金
広告料収入	200,000	97,500	102,500	鶴松梅、丸大ハム
名簿	0	0	0	
私用電話他	70,000	37,016	32,984	併句・水墨画室料他
7 特定預金取崩収入	6,170,000	5,101,307	1,068,693	
安井医学奨学生	310,000	300,000	10,000	
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,302,007	△42,007	
国際奨学生	2,000,000	1,699,090	300,910	
若手会員育成金	1,000,000	200,210	799,790	
国内奨学生・社会福祉奨学生	1,500,000	1,600,000	△100,000	
セミナー・研究等活動資金	100,000	0	100,000	
A 当期収入合計	18,660,000	26,539,801	△7,879,801	
B 前期繰越収支差額	10,000,000	11,021,743	△1,021,743	
C 収入合計(A+B)	28,660,000	37,561,544	△8,901,544	

2008年度 収 支 計 算 書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位:円)

(単位:円)

貸 借 対 照 表

2009年3月31日現在

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I 支出の部					II 支出の部				
1 事業費支出	12,330,000	11,812,690	517,310		1 事業費支出	1,200,000	0	¥200,000*6名	
セミナー補助事業	300,000	727,432	△427,432		セミナー補助事業	300,000	400,000	△100,000	￥200,000*2名
一般奨学生金	1,200,000	1,200,000	0		一般奨学生金	1,200,000	1,200,000	0	
社会福祉費	100,000	81,400	18,600		社会福祉費	100,000	81,400	18,600	
贈呈式費用	2,050,000	1,732,150	317,850		贈呈式費用	2,050,000	1,732,150	317,850	
国際奨学生金	310,000	300,000	10,000		国際奨学生金	310,000	300,000	10,000	
守田科学研究奨励金	1,350,000	1,383,192	△33,192		守田科学研究奨励金	1,350,000	1,383,192	△33,192	
若手会員育成金	1,000,000	200,000	800,000		若手会員育成金	1,000,000	200,000	800,000	
新春のつどい費用	800,000	922,911	△122,911		新春のつどい費用	800,000	922,911	△122,911	
分担	1,230,000	2,260,871	△130,871		分担	1,230,000	2,260,871	△130,871	2008年度会費(1,225名分)
I FUW-UWA会費	100,000	0	100,000		I FUW-UWA会費	100,000	0	100,000	
I FUW関係連絡費	95,000	105,000	△10,000		I FUW関係連絡費	95,000	105,000	△10,000	
NGOその他助成金	50,000	50,000	0		NGOその他助成金	50,000	50,000	0	
I FUW寄付金	60,000	49,400	10,600		I FUW寄付金	60,000	49,400	10,600	
各団体会員活動費	610,000	554,154	55,846		各団体会員活動費	610,000	554,154	55,846	
団書印刷費	5,000	0	5,000		団書印刷費	5,000	0	5,000	
報酬発行費	1,350,000	1,311,450	38,550	年4回発行	報酬発行費	1,350,000	1,311,450	38,550	年4回発行
会報の通報費	20,000	65,310	△45,310		会報の通報費	20,000	65,310	△45,310	
記念事業費	500,000	469,420	30,580		記念事業費	500,000	469,420	30,580	
10周年史稿	0	0	0		10周年史稿	0	0	0	
理費支出	5,386,700	4,969,387	417,313		理費支出	5,386,700	4,969,387	417,313	
会員登録料	1,860,000	1,777,119	82,881		会員登録料	1,860,000	1,777,119	82,881	
会員登録料	310,000	263,114	46,886		会員登録料	310,000	263,114	46,886	労働保険料、社会保険料
会員登録料	1,400,000	996,209	403,791		会員登録料	1,400,000	996,209	403,791	
会員登録料	0	0	0		会員登録料	0	0	0	
会員登録料	0	0	0		会員登録料	0	0	0	
旅費	60,000	60,000	0		旅費	60,000	60,000	0	
信託金	200,000	218,812	△18,812		信託金	200,000	218,812	△18,812	
通帳	50,000	52,487	△2,487		通帳	50,000	52,487	△2,487	
什器耗材	600,000	690,321	△90,321		什器耗材	600,000	690,321	△90,321	
消耗品	325,200	325,200	0		消耗品	325,200	325,200	0	
刷	140,000	136,875	3,125		刷	140,000	136,875	3,125	
製本	120,000	120,000	0		製本	120,000	120,000	0	
費	168,500	157,900	10,600		費	168,500	157,900	10,600	
費	100,000	144,155	△44,155		費	100,000	144,155	△44,155	
課	3,000	1,995	1,005		課	3,000	1,995	1,005	
金	980,000	13,558,141	△12,578,141		金	980,000	13,558,141	△12,578,141	
課	0	0	0		課	0	0	0	
金	50,000	50,149	△149		金	50,000	50,149	△149	
課	10,000	205,243	△195,243		課	10,000	205,243	△195,243	
金	10,000	3,702	6,298		金	10,000	3,702	6,298	
課	10,000	2,217,089	△2,207,089		課	10,000	2,217,089	△2,207,089	
金	700,000	816,261	△16,261		金	700,000	816,261	△16,261	
課	200,000	200,000	0		課	200,000	200,000	0	
税	0	0	0		税	0	0	0	
租	17,547	17,547	0		租	17,547	17,547	0	
税	10,040,109	10,040,109	0		税	10,040,109	10,040,109	0	
支	0	8,041	△8,041		支	0	8,041	△8,041	
費	0	0	0		費	0	0	0	
4 予備費	100,000	100,000							